

悪いことをしたらあかんど！！

ボクは、生きている間に、どうしても観たいものが3つあった。ひとつは、大アマゾン、イグアスの滝。もうひとつは、ヒマラヤ山脈のエヴェレスト(サガルマータ・チョモランマ)である。アマゾンとイグアスの滝は、10年ほど前に達成した。このとき、ついでにナスカの地上絵とマチュピチュもクリアした。マチュピチュでのこと、若い女性が2人来て、「ついに来たねえ！」と言った後静かになったので、ふと見ると涙を流していた。エッ?! そんなに感動するものなの?という感じ。芝生が生えたただの廃墟じゃないですか。アマゾンのクルーズでは、ピラニアも釣り、唐揚げが旨かった。イグアスではしぶきも浴びてきた。ブラジルの肉は旨かった。

今回は、ネパールの政変後初めて JAL が飛ぶ、10年ぶりのことだという。もうヒマラヤを観るチャンスはめぐってこないだろう。これ幸いと、ネパールに行くことにした。エベレストは遊覧飛行だというから、大丈夫だろう、と思っていた。現地に到着後夕食。翌日、エベレストの遊覧飛行である。天気は快晴。よく見えた。(前々日まで天候が悪かったらしい。).....そのあとがいけない。見たくもないお寺の散策である。とにかく付いて行かないとはぐれてしまう。炎天下、3時間も4時間もぞろぞろと歩くのである。これで、宿阿の腰痛が始まってしまった。それからは、観光どころではない。20数人の団体で、脱落しそうなのは、ボクだけである。みなさん、ボクよりも年配で、リタイアした人ばかりである。そのタフなこと、両手に杖をついている人まで普通に歩いている。トレッキングやお寺見学に食欲なまでに粛々としてスケジュールをこなしている。その間、ボクはホテルで寝ていた。最終日には、カトマンズから離れてバスで移動する。添乗員さんには、ずいぶん世話になったのだが、これ以上迷惑をかけるわけにもいかないし、同行者にも迷惑だろう。ここでギブアップして、カトマンズでホテルをおさえてもらった。当然、送迎付きである。この方が迷惑だったかも知れないくらいである。五つ星の最高級ホテルである。JAL はチャーター便だから、帰国の時刻まで決まっている。

この時の話。悪いことはしてはいけない！ どこで誰に会うか、世話になるか、知れたものではない、ということを痛感した。

ボクの数少ない友人のひとりが、10年以上前によくネパールでボランティア活動をしていた。このときに友達になったネパール人を紹介してくれた。みやげ物売る店を経営しておられるという。カトマンズで自由時間があれば、品物もいいので是非この人の店で買ってあげてください、という。

カトマンズで自由時間があれば、と思っていたが、どうやらその時間はないらしい。やむなく、電話で連絡だけしておいた。うまくいけば、会いに来てくれるかもしれない。到着翌日、夕食は午後 8 時頃までかかり、ネパール料理だった。(友人が言う、「先生にはまあ無理です、食べられないでしょう。」 実際、どこに行っても食べ物には苦勞する。モンゴルでもタイでもほとんどだめだった。言ってみれば、アカンタレなのです。)午後 8 時を過ぎていたが、添乗員さんが申し訳なさそうに、時間が少し遅れますが、よろしいですか?……ウーン、仕方がないです。……これから民芸品店に行かなくちゃならないんです。で、バスは細い暗がりに入りに侵入して行く。このときには、すでに腰をやられている。店のなかには入らず、表で立ったり座ったりしながらタバコを喫っていた。出発の時刻になっても連れが出て来ないから、催促のために店内に入った。一応、店主の顔を見た。まだ会計をしていた。店の表には、東京オリンピック、日本頑張れ! 店内には三浦雄一郎の色紙が飾ってあった。8 時 30 分頃にホテルに戻った。ここで、友人が紹介してくれたネパール人の話をし、姓名と店の名前を書いた紙を部屋に戻って取ってきて、見せた。現地ガイドさんは、「ああ、これは今行った所です」「はあ?」……携帯電話に番号が登録されていて、その場で電話をした。最後に何百ドルか払った客がいたでしょう? 10 分ほど前に。あれがボクの連れです。向こうもびっくりしたが、こちらは、サブイボがたつ、つまり総毛だったわけである。添乗員さんは、ネパールはほとんど初めてだったらしく、「えらい暗い狭い道をはいっていくなあ、と思ってました。」と正直に言う。

実は、午後 8 時になったら店を閉めて、どうもわれわれが泊まっているホテルを訪ねてくれるところだったらしく、ところが、われわれのツアー客が行くから、と強引に店を開けさせた、というところらしい。阪急トラピックスが、ほぼ必ず客を連れて行く店だという。ともかく、お互いに名前は知っていたが、顔を知らないから、間抜けな話になってしまった。

あまりの偶然に、しばらく興奮して眠れなかった。ボク以外のツアーの人々は、帰りにもう一度その店に寄ったらしく、お客さんで混雑していたという。連れが挨拶をしている間にも続々とお客さんが来て、多忙だったという。腰痛がなければなあ。店の名は、ルート・ネパール。主人は、ラジェンドラさんという。暴利を貪らない店で、いい品物はいいと言うし、一番いい物か二番目の物かも教えてくれる。ぜひ、ここで買ってあげてください。

以上の話とはまったく別の話になる。120 数人乗りの飛行機を満員にした旅行社が、JAL をチャーターしたのだが、ボクの連れも結構世界中のあちこちに行っている。それでも知ったひとには会わなかったという。ところが、今回の旅行の最初の食事のとき、突然「ご無沙汰しています。〇〇さんですよ」。向こうは女性 4 人連れだったのだが、全員、仕事の上でなんらかの関連があった

という。ヘツという感じ。……………これが現役中に意地悪などをしていたら、と考える時、悪いことはしたらあかんど！と思う。

今ゆえなく、ことあるたびに執拗にいやがらせ・意地悪をしている連中に告ぐ。どの社会にもあるいじめの問題でもそうである。役に立つ間はこき使い、それが過ぎれば弊履のごとく投げ捨てる。何年かあるいは何十年かのちに、どこかでばったり会ったり、どこでどんな世話になるかもしれない。親しく電話もできないような嫌がらせをしてきた輩は、電話1本ですむ頼みごともない。電話もかけてこられない。偉いさんになりたい、と手をすり合わせて近寄っても、腹の底が見えているから適当にあしらわれるだけになる。会社でいえば、社長になりたいと画策しても、不徳のいたすところまったく相手にされず、若い人から、あの人はもう済んだ人ですから……………。

出発の前に、スタッフが「いいですねえ」と羨むから、そんなもん、拷問受けに行くようなもんじゃ！ 実際、自慢じゃないが、予言どおり、その通りになってんけど。

2014.04.24.